

5月の技術対策（水稻）

平成19年5月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 適切な育苗ハウスの管理

(1) 育苗後半の温度・水管理（表1・2）

昨年も「ほしのゆめ」や「ななつぼし」で早期異常出穂の発生が散見されました。2.5葉期以降の高温（25 以上）管理が原因ですのでこれを避けて下さい。温度の高くなりやすい成苗ポットは特に注意が必要です。ハウスを十分開放しても温度が下がらない場合、日中でも、かん水し温度を下げることも検討して下さい。

表1 育苗後半における温度管理のポイント

成苗	本葉1.6～3.5葉	本葉3.6～移植
中苗	本葉1.6～3.0葉	本葉3.1～移植
基準	昼	18～20
	夜	10 以上
目安	20 以上や晴天時は換気する。2.5葉期以降は25 以上にしない。	外気温と同じにする。25 以上にしない。
管理方法	晴天時は早朝からハウスの肩や裾を開け適切な温度管理をする。夕方は早めに閉じる。	霜が降らない限り、昼夜ともハウスの肩・裾を大きく開放し、外気温に苗をならす。

表2 育苗後半における水管理のポイント

区分	成苗	中苗
目安	早朝に葉先に水滴が無くなった場合や、日中に葉身の展開が悪くなったときはかん水する。夕方にはポット内の土が乾くようにする。	早朝に葉先に水滴が無くなった場合や、日中に葉身の展開が悪くなったときはかん水する。
かん水方法	1.6～2.5葉期までは部分乾燥に注意する。3葉期以降は置床の水分が十分であれば2～3日のかん水でも良い。	かん水は一度に多量に行い、床土全体に浸透させる。早朝にかん水し、低温が予想される場合や午後のかん水は避ける。

(2) 追肥（表3・4）

燐酸過剰障害が発生した場合は、硫安を追肥して下さい。また、各育苗様式とも、移植3～5日前に追肥を行い、移植後の活着促進に努めて下さい。

表3 育苗様式別の追肥時期

育苗様式	中苗		成苗
	箱マット 箱ポット	型枠	ポット
追肥時期			
1.0～1.5葉		-	-
2.0～2.5葉		-	-
3.0～3.5葉			

表4 追肥の肥料銘柄と追肥量

肥料銘柄	箱(枠)当たり	坪当たり
N P 化成57号	7 g	120 g
苗床追肥用 液肥(18-6-0)	100倍液 0.5リットル	100倍液 9リットル
硫安	5 g	90 g

注) : 必ず追肥する、 : 必要に応じ追肥する、 - : 追肥の必要なし。
成苗箱マットと成苗箱ポットの追肥は、中苗箱マット・箱ポットに準じて行う。

(3) 殺虫・殺菌剤の苗床処理

薬剤の使用方法は「平成19年度農作物病害虫・雑草防除ガイド」やラベル表示で確認して下さい。また、ポジティブリスト制度により、除草剤、殺虫・殺菌剤を苗床で箱施用・かん注した育苗ハウスの後作での野菜等の栽培は各JAに確認して下さい。

2 高整粒・低蛋白米（精米蛋白率6.8%以下）を目標とした水田の施肥

(1) 施肥の考え方

- ア 土壌診断に基づく施肥の実施：適正な窒素・ケイ酸施肥が可能
- イ 稲わら鋤込みを考慮した施肥の実施
5年鋤込みで1kg/10a、10年鋤込みで2kg/10aの窒素成分の減肥が必要
- ウ 側条施肥の実施：土壌型により側条施肥率を決定し、初期生育を促進

(2) 復元田における施肥

本年は米の生産目標数量が加算され、復元田が増えます。復元田でも高整粒・低蛋白米生産を目指し、窒素成分は表5を参考に減肥して下さい。

表5 復元田（田畑輪換）に対する窒素施肥（北海道施肥ガイドより）

土壌区分	前作物の種類	復元後の年数（年目）	標準施肥に対する施肥率（%）	施肥配分（%）	
				全層施肥	側条施肥
グライ土 灰色台地土	豆類、麦類、ばれいしょ	1～2	60～70	50	50
	てんさい(茎葉鋤込み)、牧草、野菜	1～2	40～60		
	秋まき小麦春鋤込み（起生期）	1～2	50		
褐色低地土 灰色低地土	豆類、麦類、ばれいしょ	1	70～80		
		2	100		
	てんさい(茎葉鋤込み)、牧草、野菜	1	50～70		
		2	60～80		
秋まき小麦春鋤込み（起生期）	1	60			
泥炭土	豆類、麦類、ばれいしょ	1～3	50～60		
	てんさい(茎葉鋤込み)、牧草、野菜	1～2	30～50		
	秋まき小麦春鋤込み（起生期）	1	40		

注) れき質土壌では減肥しない。磷酸・加里は標準施肥に従う。
秋まき小麦の春鋤込みの復元後2～3年目は、麦類に準ずる。

3 初期生育を促す移植・水田管理

(1) 活着期までの水管理（表6）

初期茎数を確保するため、植付深は地温の最も高い1.5～2cmにし、適切な栽植密度（株間：成苗13cm、中苗12cm）を目標にして下さい。また、移植期間中に低温や強風になった場合、移植は延期し、条件の良い日に実施して下さい。

表6 移植直後から活着期の水管理

時期	目標水温（ ）	水深（cm）	注意事項
移植直後～ 2日目	22～25 (15以上)	2～3	低温・強風・晩霜 予想時： 草丈の4分の3の水深 ・移植直後に入水する ・止水管理とする ・止水管理とする ・畦畔などの漏水がないか確認する ・夜間から早朝に入水し、日中は止水とし、水温の上昇に努める
移植3日～ 活着期	23～25 (15以上)	3～4	
活着期～	23 (昼間30以上 夜間15以上)	3～5	

(2) 除草剤使用の注意事項

ア スルホニルウレア（SU）系除草剤に対する抵抗性雑草（ミズアオイなど）が目立つ水田では、非SU系除草剤を選び、散布適期内でも早めに散布する。

イ 移植後の低温・強風などで「植え傷み」が生じている場合は使用時期を遅らせる。

ウ 4日以上「止水」ができるよう水深を6～8cmにしてから除草剤を散布する。

YES!clean表示制度や農薬節減、特別栽培農産物の取り組みをしている場合は、事前に定められた農薬を使用して下さい。